

# 昨年度の新型インフルエンザ流行時の薬局における、抗インフルエンザウイルス薬の取扱い状況及び今後への提言

---

塩釜保健所黒川支所 技師 山田 和佳

# はじめに

H21年度の新型インフルエンザ発生当初



強毒性インフルエンザを想定

- ・「新型インフルエンザ対策行動計画」を適応
- ・患者は発熱外来で対応する



強毒性でないことが判明

- ・「基本的対処方針」に基づき，柔軟な対応の実施→いわゆる「仙台方式」
- ・原則として対応可能な全ての医療機関で外来診療を実施



薬局も抗インフルエンザウイルス薬の調剤等，対応が必要となる。

薬局が対応する事態は想定されていない。

# アンケート調査

## 1 実施期間

平成22年9月15日から10月29日まで

## 2 調査対象

県内にある全ての薬局（1100施設）

## 3 調査対象期間

平成21年4月1日から平成22年3月31日

## 4 アンケート調査内容（概要）

- ① 昨年度の抗インフルエンザウイルス薬を処方した患者数は約何人でしたか。
- ② 抗インフルエンザウイルス薬の通常の在庫量はどの程度ですか。
- ③ 昨年度の新型インフルエンザ蔓延時に、抗インフルエンザウイルス薬の処方に限り、ファクシミリによる処方箋の受付が認められましたが、実際にファクシミリによる処方箋の受付はありましたか。
- ④ 患者宅まで薬剤を配送した際、困ったことがありましたか。
- ⑤ 抗インフルエンザウイルス薬の処方を受け付けた際、抗インフルエンザウイルス薬の在庫がなかったことはありましたか。
- ⑥ 「タミフルカプセル75」の脱カプセル化を行いましたか。

- ⑦ 抗インフルエンザウイルス薬が不足していると感じたことはありましたか。
- ⑧ 昨年度、新型インフルエンザ感染患者が来局した際に、どのような対応をとりましたか。
- ⑨ 今後、新型インフルエンザ感染患者が来局した際に、どのような対応をとりますか。
- ⑩ 今後、強毒性の新型インフルエンザが流行した場合、患者へ迅速かつ適確に薬剤を交付するためには、どのような対応が考えられますか。
- ⑪ 強毒性の新型インフルエンザが流行し、薬剤を患者宅まで配送しなければならない状況になった場合、薬剤師が薬剤を患者宅まで配送することは可能ですか。
- ⑫ 薬剤師が薬剤を配送できない主な原因は何ですか。

# 1 インフルエンザ罹患患者数

・ 薬局来局患者数 129,030人  
(アンケート調査による人数)

・ インフルエンザ様症状で医療機関を受診した推計  
患者数 約38万人

・ 県内の薬局に来局した推定人数  
(アンケート回収率 85.0%)  
151,800人

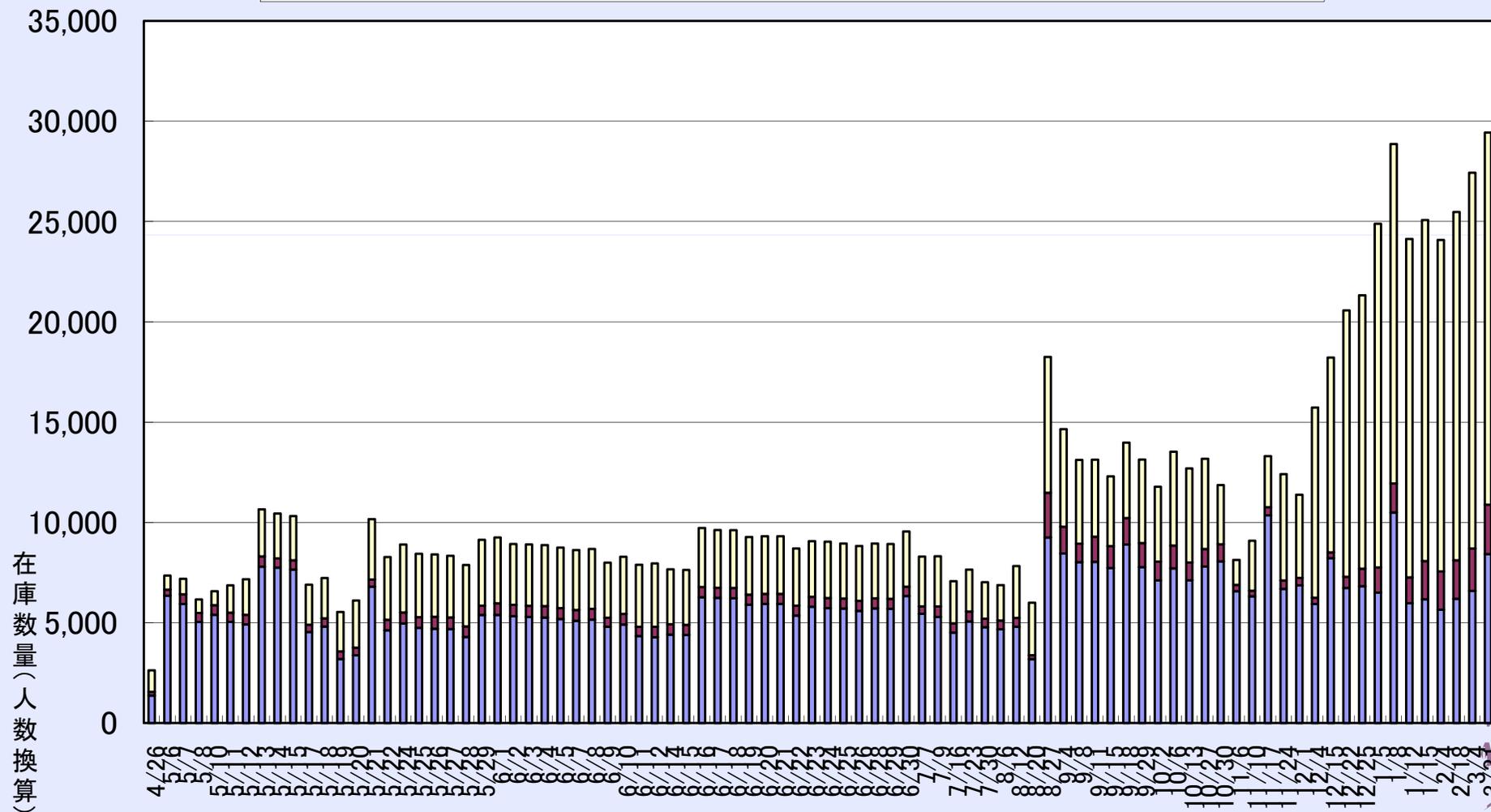
## 2 抗インフルエンザウイルス薬の 通常在庫

薬剤名	平均在庫	人数換算	一人あたりの必要量
タミフル	138.4錠	13.8人分	通常1人10錠
タミフルドライシロップ	3.8箱	4.6人分	通常1人25g (37.5kgの小児として。 1箱=30g)
リレンザ	16.1箱	16.1人分	通常1人1箱

- 1 薬局あたり **34.5**人分の在庫がある
- また、県全体として薬局には  
 $34.5 \times 1,100$  薬局 = **37,950**人分の抗インフル  
エンザウイルス薬の在庫がある

# H21年度抗インフルエンザウイルス薬 在庫量調査（卸組合調べ）

■ タミフルカプセル ■ タミフルドライシロップ ■ リレンザ



# 参考

- 宮城県の備蓄量(H22.11末時点)

タミフル 約35万人分

リレンザ 約1.6万人分

- 全国の備蓄量(H22.11末時点)

タミフル 国 3,000万人分

県 2,200万人分

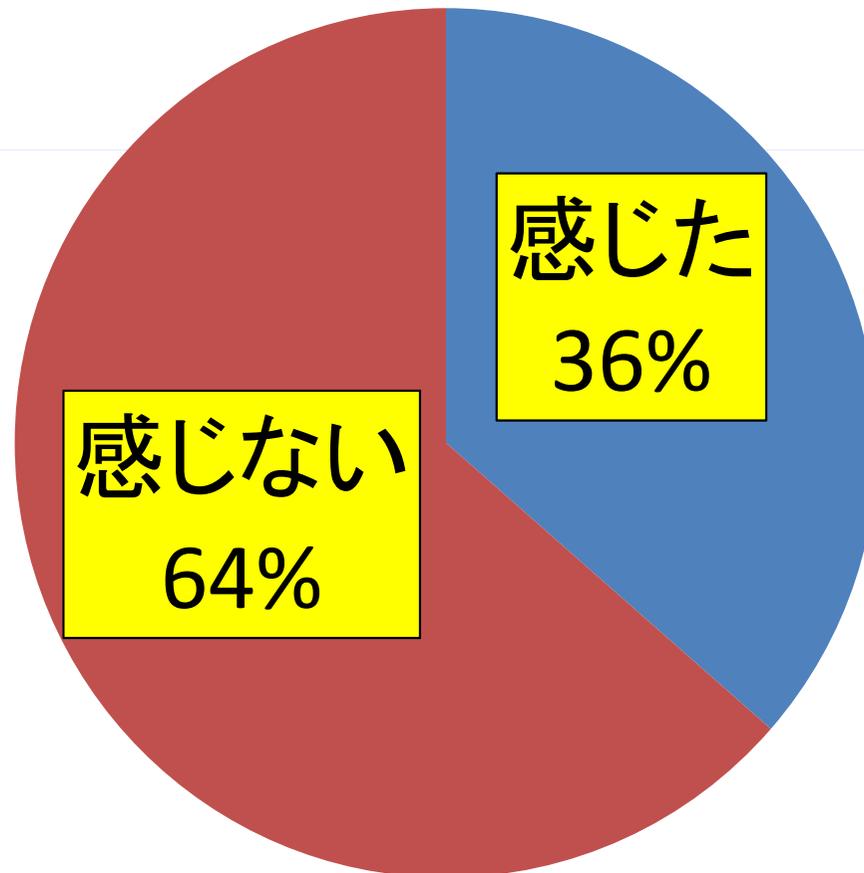
リレンザ 国 300万人分

県 500万人分

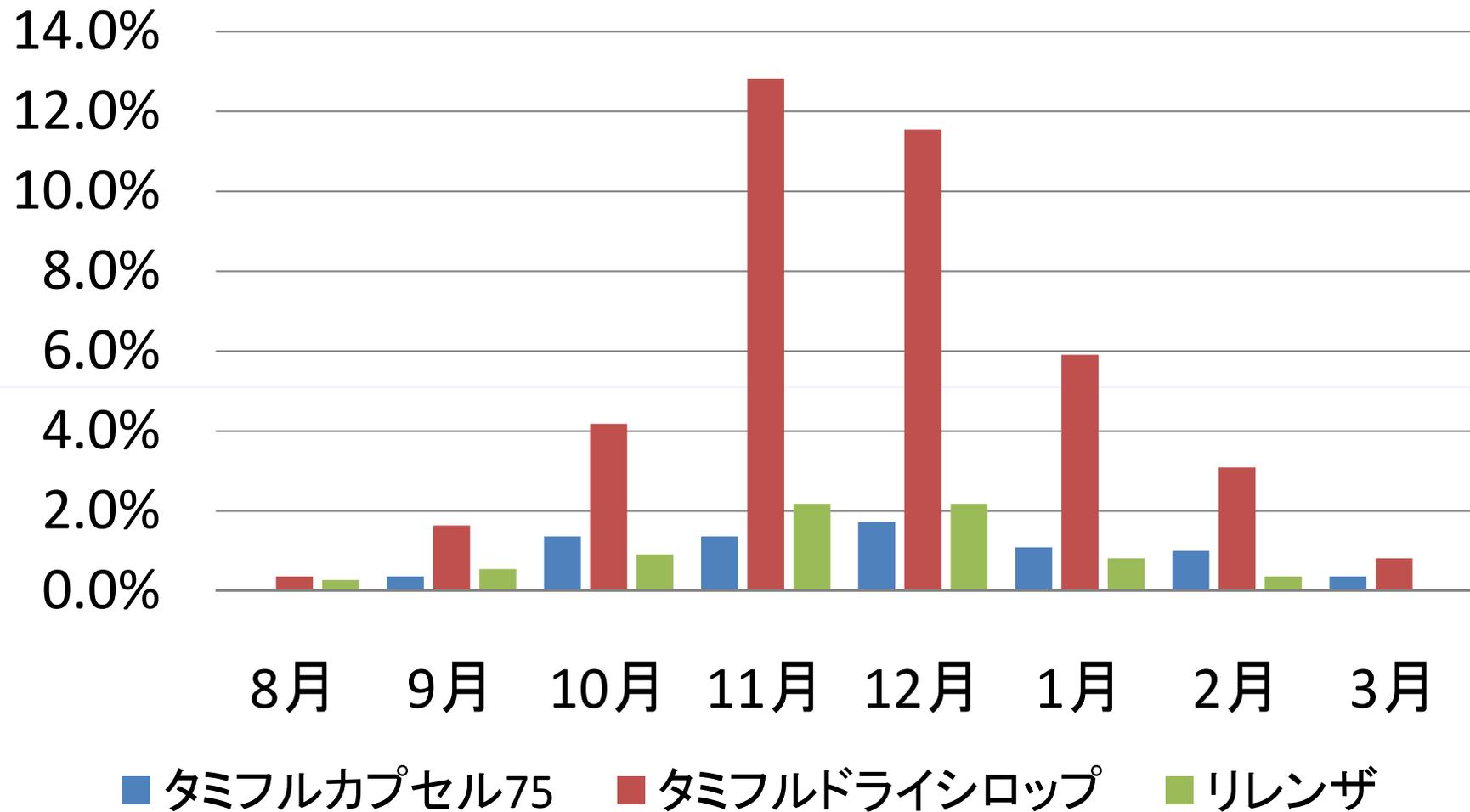
計 6,000万人分

# 3-1 薬局における抗インフルエンザウイルス薬の取扱状況

抗インフルエンザウイルス薬が不足していると感じたことがありますか？



## 抗インフルエンザウイルス薬が不足した時期



11月・12月にピークを迎えている

※ 定点医療機関あたりの報告も11月下旬頃にピークを迎えている。

## 3-2 薬局における抗インフルエンザウイルス薬の取扱状況

「タミフルカプセル75」の脱カプセル化を行いましたか？

あり, 15.7%

なし, 84.3%

### ※ 脱カプセル

タミフルカプセルから中身だけを取り出し、賦形剤(乳糖)を混ぜて粉薬にする方法。

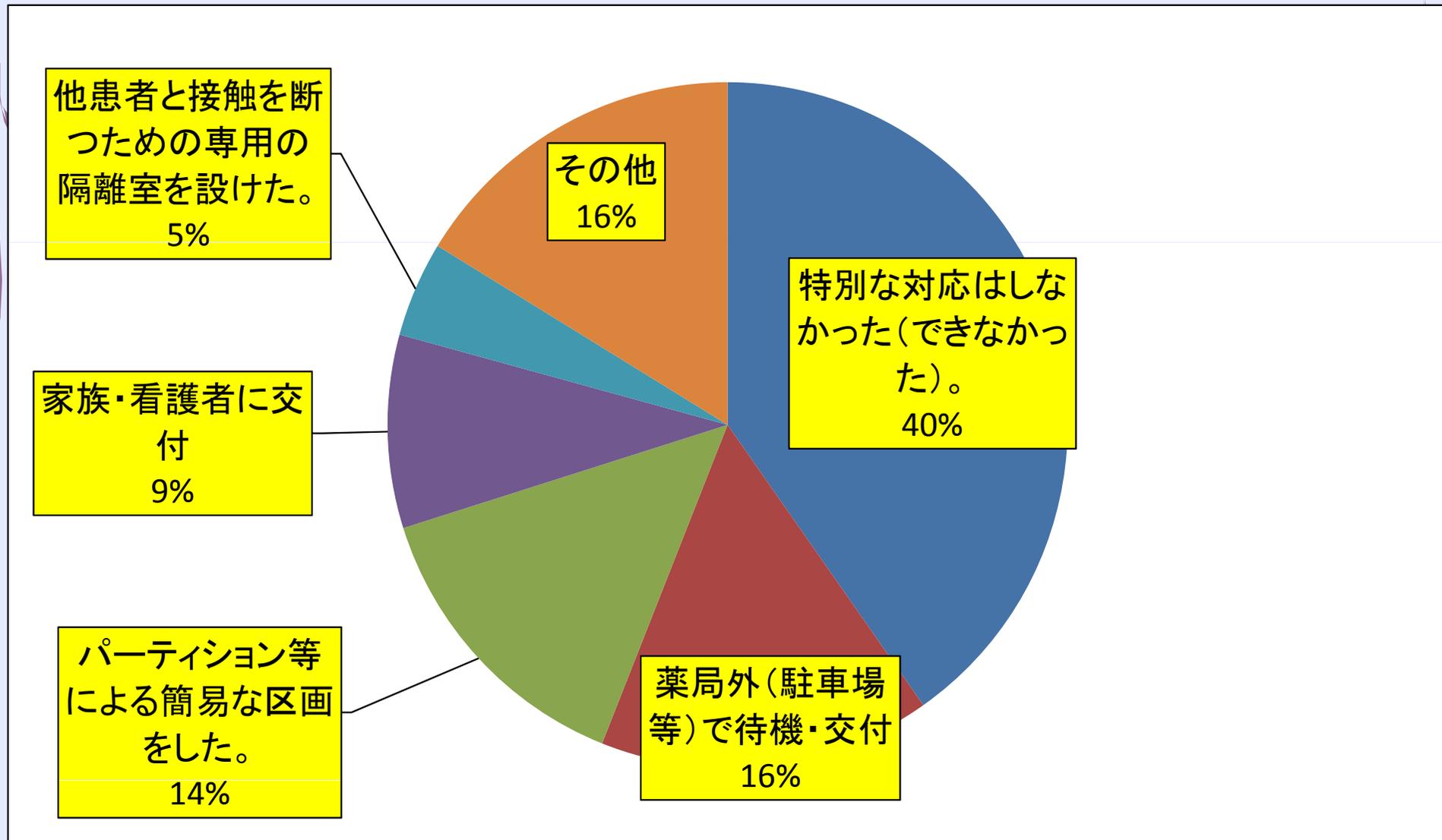
抗インフルエンザウイルス薬の在庫がなかったことはありましたか？

あり, 12.3%

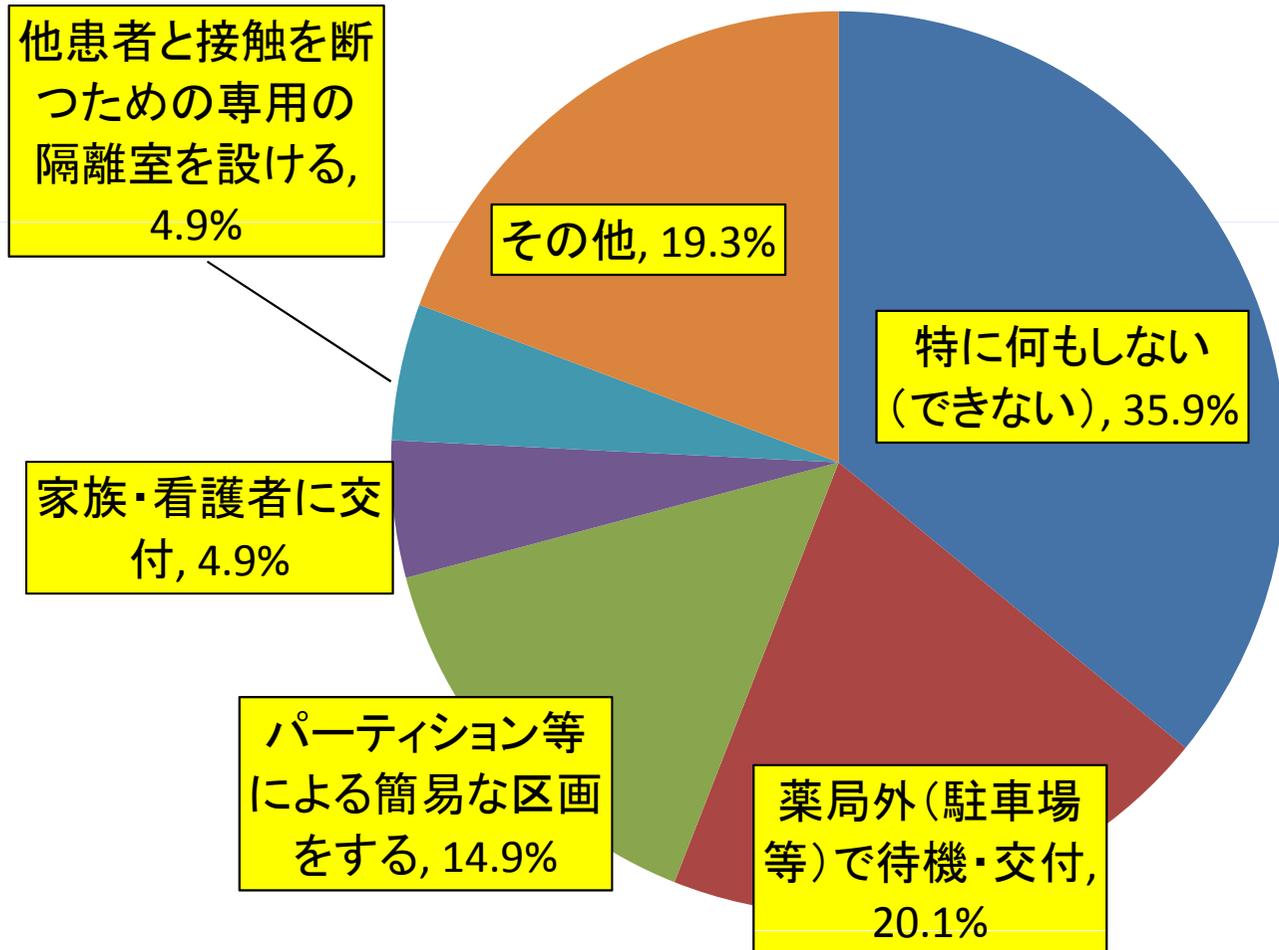
なし, 87.7%

※ 抗インフルエンザウイルス薬は、発症後2日以内に投与が必要

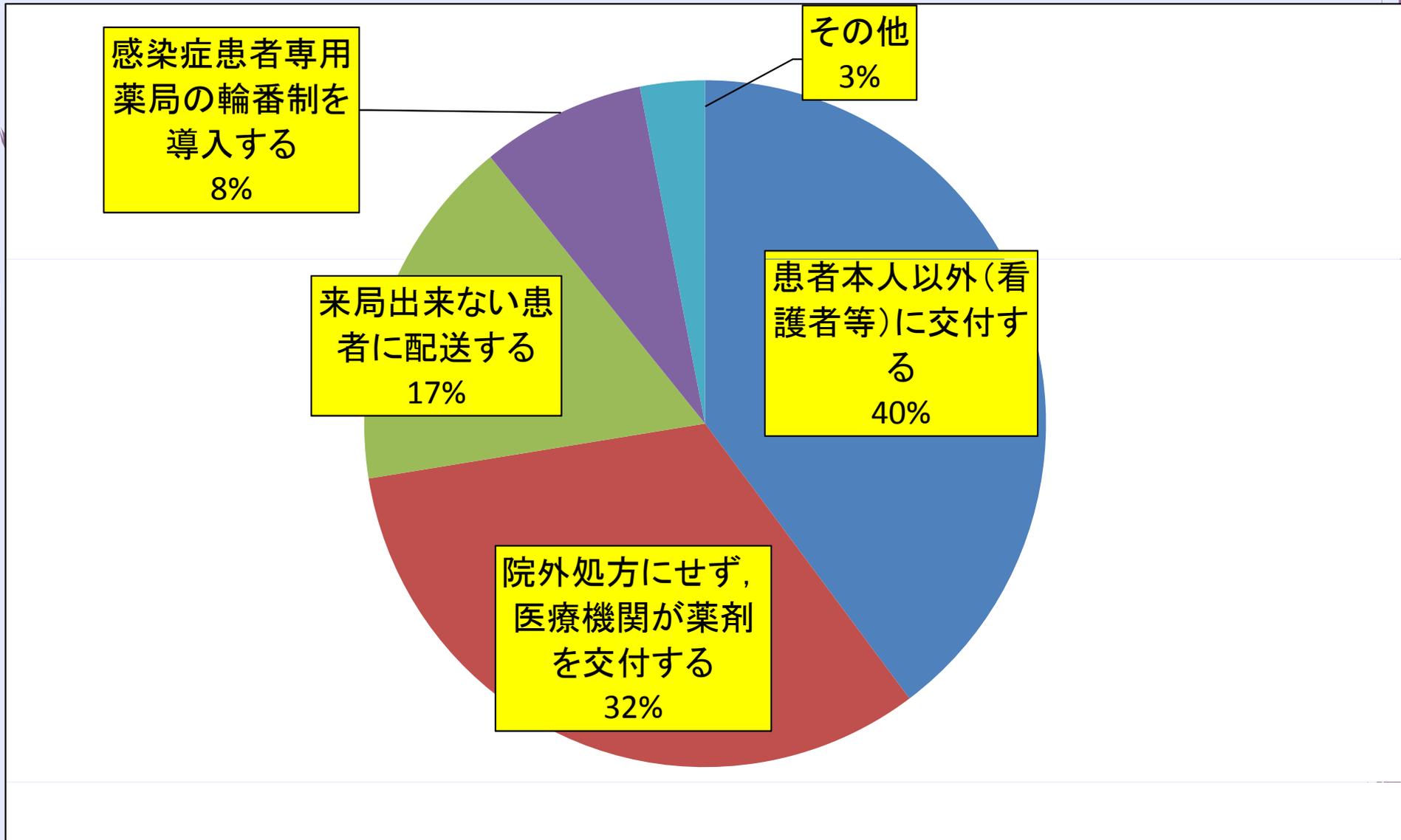
# 4 昨年度の新型インフルエンザ感染患者への対応



# 5 今後の新型インフルエンザ 感染患者への対応

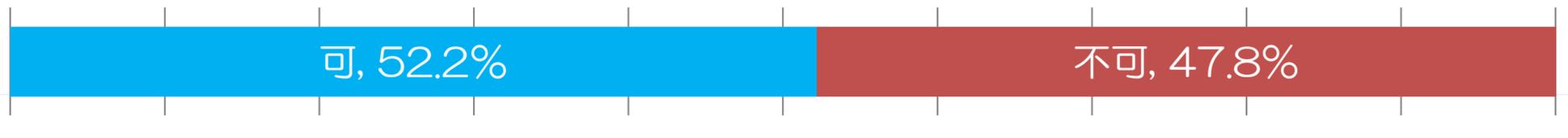


# 6 患者へ迅速かつ適確に薬剤を交付するための方法

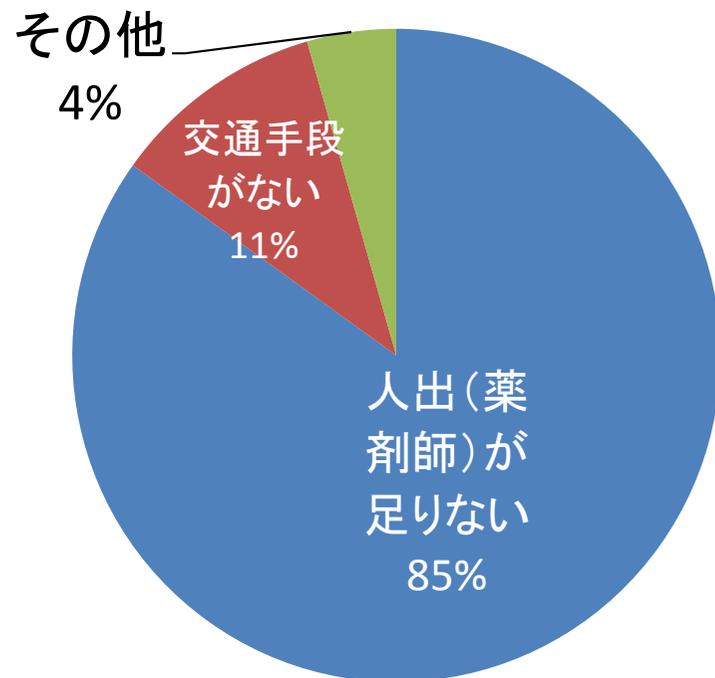


# 7 新型インフルエンザ流行時の患者宅へ 薬剤の配送（薬事法上認められない）

患者宅への配送の可否



配送できない理由



- ・ 薬局が配送できる件数

平均 **4.6** 件/日

# まとめ

- ・昨年度、新型インフルエンザ蔓延時の薬局の問題点、また、行政の反省点は？

## 薬局

### 在庫の確保

- ・卸に在庫は常にあったが、薬局では在庫不足を感じる薬局があった。

### 感染防止対策

- ・半数以上の薬局が何らかの対策を講じた中で、対策を講じなかった薬局も多かった。

## 行政

### 関連通知等の情報共有

- ・各薬局が関連通知等を十分に理解しきれなかったため、各薬局での対応がまちまちになった可能性がある。

# 提言 1

## 在庫の確保

卸に在庫は常にあったが、薬局では在庫不足を感じる薬局があった（特にタミフルドライシロップ）。



薬局：適切な在庫管理

行政：県内の流通在庫量や、行政備蓄タミフルの保管等、HPなどを通じて的確な情報提供を行う。

# 提言2

## 感染防止対策

- ・半数以上の薬局が何らかの対応をした中で、対応を取らなかった薬局も多かった（約40%が感染対策不備）。

仙台方式後は通常の季節性インフルエンザと同様の対応を取ることもなった。

各薬局が独自に感染防止対策等を取ることもとなり、対応が様々になってしまった。

パンデミック時には、独立した待合室等が必要となる。



ソフト面及びハード面の対応方針の策定・周知を図るとともに、輪番制の発熱薬局（仮称）を設ける。

# 提言3

## 関連通知等の情報共有

各薬局が関連通知等を十分に理解しきれなかったため、各薬局での対応がまちまちになった可能性もある。



県、関係団体及び各薬局が速やかに情報を共有できるシステムの構築及び活用



普段からシステムを利用し、受け身ではなく自ら必要な情報を取得しようとする心構えも必要